

基調報告（常任理事会）

（社福）こぶしの会

はじめに

1 セミナーの目的

- i 年頭にあたっての全職員研修としてセミナーは開催されています。
こぶしの会にかかわっている人たちがこぶしの会の目標と行動の方向を共有し、一体感のある福祉事業を展開していきたいと考えています。
- ii また、ここ数年市民セミナーの実施ができず、全職員研修とセットで開催されており、市民セミナーの意味合いもあります。
特に、今年の9月は法人設立40周年を迎えます。さらに、
 - ① 第3次中長期計画が今年度で終了しその総括と第4次中長期計画の策定時期であること。また、
 - ② ①に合わせて31年度の事業計画作成の時期でもあります。30年度の後半は、そのための経営関係者の会議や職員ヒヤリング、アンケートをもとにすすめてきたところです。

2 第3次中長期計画の目標

第3次中長期計画は第2次計画で指摘された課題をその後の10年間で検討した上で、事業拡大の負の遺産である職員のキャリア形成や法人の一体感をつくる経営主体づくりを中心に活動してきました。

大まかには、

- ① サービス区分毎の事業内容の充実
- ② 人事・教育体制の整備と実施

でした。その取り組みの一つとして、新春セミナーがあり、前年度に「オープンダイアログ」の紹介、またその後、こどもの発達論・心理学の学習、作業療法士や臨床心理士等の専門家との連携や精神関連の地域セミナーや当事者の参加も得ながらリカバリー研修に参加するなどそれぞれの分野で学習を重ねてきたところです。

こうした延長線上に今回の山竹先生の講座を企画した狙いがあります。

3 第4次中長期計画をめぐる状況

さらに付け加えると、今回の講座の内容には第4次中長期計画をめぐる状況の共通理解があります。

これまで管理職員や理事・評議員を含めた第4次中長期計画策定委員会で話し合われてきましたが、内容のポイントの1つは私たちひとりひとり、こぶしの会、そして私たちの暮らす地域や国の変化です。

乱暴なまとめ方をすると、

①福祉国家という国のシステムに丸投げしていた私たちの生活は、高度成長（実は、70年代に終わりを告げ、バブル崩壊で決定的になった）という企業社会に支えられていたが

③ 経済のグローバル化（後進国に富が移っていく）の中で福祉国家システムを支える基盤がゆらいでいる。それが少子高齢化社会、低成長（定常）社会での必然的な現象として進行している。

④ このままの状態では、福祉国家の制度の枠組みは崩れ（雇用不安、年金医療の崩壊による生活不安）、そこに頼っていた私たちは、地域共同体の中で進行している格差社会、無縁社会へと投げ出されます。それは、ちょっとした生活の困難（失業、離婚、疾病、障害、高齢化）がきっかけで人間関係が絶たれ不安の世界に巻き込まれるとということです。

④ そのような予測の中で行政が示したシステムが地域包括ケアシステムであり福祉社会というビジョンではないでしょうか。住民同士が協力して自分たちの生活を守るとのことです。

⑤ しかし、残念ながらすでに国や企業に頼り切り、一人一人が孤立してしまっただけで、システムの中で生きてきた市民や地域共同体、福祉事業者には困難な道のりが予想されるとおもいます。また、高度成長政策をとり続けている政治状況では財政赤字を含め困難に拍車がかかることが予想されます。

以上の状況の中で考えられることは、予想される困難に（つまり、金の切れ目が縁の切れ目）に対峙できる強い絆を形成した個人、法人、地域の関係づくりではないでしょうか。

総括すると、これからの経営理念や行動指針、ビジョン（戦略）の見直しの中で検討していただきたいのは以下の視点だと考えます。

① （やさしさ）を基調にした地域社会、組織理念と個人の自立

② ①を動機として社会的弱者を包摂し、共生の社会づくりを目指す中で形成される知識と技術（かしこさ）

③ さらに①②を通じて結ばれる強固（継続可能な）なひとりひとりと組織、社会の民主的な関係（絆）である（つよさ）

こうした経営目標となるような意志、意味を共有化し、現在進行している社会・経済・文化のパラダイム転換の時代を私たちの自立を通じて現実のものにしていくことが第四次中・長期計画の柱になると考えられます。

今回の講座がこうしたムーブメントの発火点になれば企画の目標がかなえられたことになると思います。